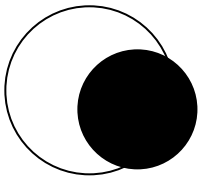


平成 29 年度事業報告



平成 29 年度事業報告

人と自然の博物館では、その活動内容をよりわかりやすくかつ明確にするために、平成 14 年度から「中期目標」と「措置」を設けています。中期目標はいわば博物館の行動の指針となる大項目であり、それぞれに達成を目指すべき目標値（指標）が設定されています。さらに中期目標各項目の下位項目として「措置」を設定し、博物館活動の活性化に資する取り組みを数値で把握するようつとめています。

- 第 1 期中期目標 平成 14 年度（2002 年度）～18 年度（2006 年度）
- 第 2 期中期目標 平成 19 年度（2007 年度）～24 年度（2012 年度）
*開館 20 周年にあたって策定した「ひととはく将来ビジョン」
を反映させるため期間を 1 年延長
- 第 3 期中期目標 平成 25 年度（2013 年度）～29 年度（2017 年度）

1-1 研究活動

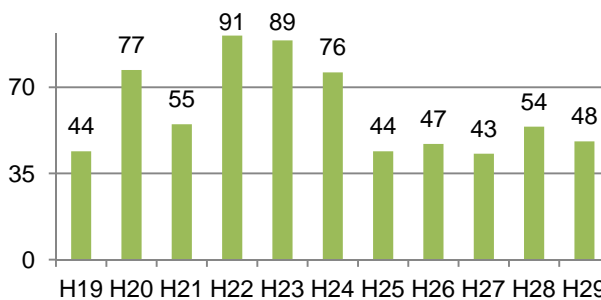
研究
シンクタンク
推進室

すべての活動の基礎となる研究を引き続き精力的に遂行し、成果を還元します。

1 学術論文・図書数

学会等の査読を経て掲載された学術論文と専門図書数

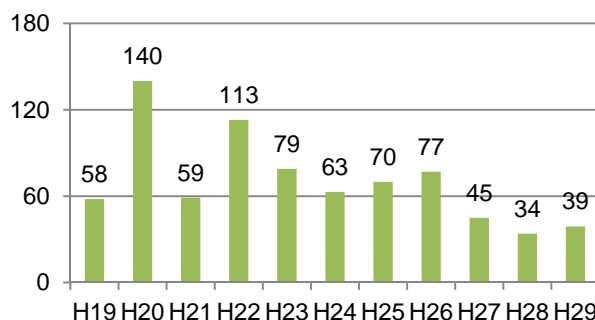
中期目標：35本/年
平成29年度：48本(137%)



2 一般向け著書・その他著作数

論文(総説・その他)、一般向け著書、雑誌・新聞等の著作数

中期目標：60本/年
平成29年度：39本(65%)



平成29年度の達成状況と自己評価

研究活動の基礎となる学術論文については、目標を大きく上回る成果が得られました。また研究助成金獲得数・金額も、目標を大きく上回っています。いっぽう、一般向け著書等は昨年より増えたものの、依然として低い値で推移しています。セミナーや「研究新着コーナー」において研究成果を分かりやすく発信するよう努力をしているところですが、成果を一般の読み物として広く発信する点に課題を残しました。

平成30年度の取り組みに向けて

引き続き、最新の研究成果の発信に取り組むとともに、来館者にとってもわかりやすい言葉使いの読み物を提供できるよう、様々な媒体を活用して情報発信に努めます。

1-2 資料

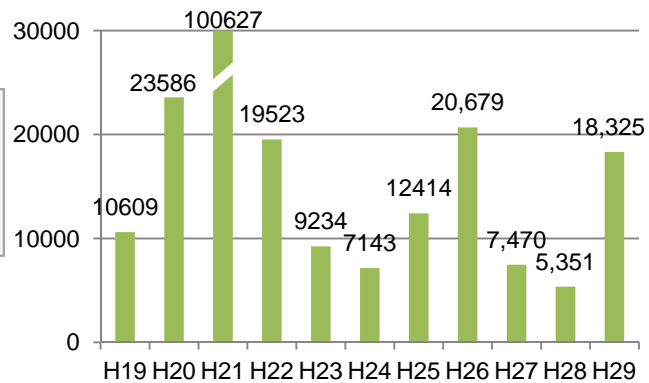


特色ある質の高い資料を収集・整理し、利活用を推進します。

1 資料の登録点数

「ひとはく資料データベース」への年間登録件数

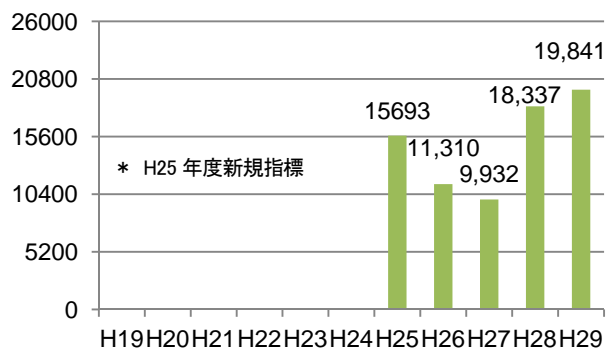
中期目標：10,000点/年
平成29年度：18,325点(183%)



2 資料の利活用点数

館内展示・館外展示・貸出点数・マルチメディア等データ提供点数の合計

中期目標：5,200点/年
平成29年度：19,841点(382%)



平成29年度の達成状況と自己評価

博物館資料DB登録件数、資料の利活用点数ともに目標を大きく上回りました。館員各自の資料整理と利活用の努力が、成果として現れた結果と考えています。

平成30年度の取組に向けて

資料標本のDB化促進について、昨年度から進めている標本画像データからのラベル情報自動読み取りとDB入力プログラムの開発と実装を目指します。展示等への既存資料の活用は順調ですが、やや手薄になっている館員の資料採集、および館資料の研究への利活用を重点的に推進します。

1-3 シンクタンク活動

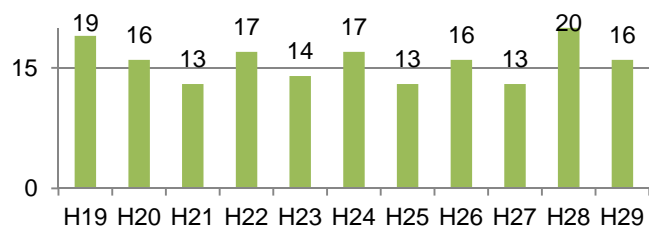
研究
シンクタンク
推進室

「地域資源の保全・利活用の最適化をはかる」ことを目的としたコミュニティシンクタンク活動を展開します。

1 受託件数

調査研究受託契約件数

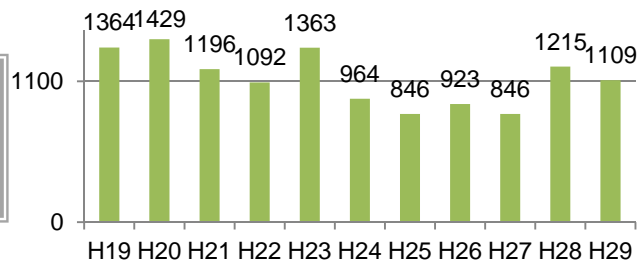
中期目標：15件/年
平成29年度：16件(107%)



2 県政・市町行政に対する貢献度

国・県・市町関連の委員会参画数および相談件数

中期目標：1,100件/年
平成29年度：1,109件(101%)



平成29年度の達成状況と自己評価

受託件数と県政・市町行政に対する貢献度のどちらにおいても、目標を達成しました。とくに県政・市町行政に対する貢献度に関しては、平成24年度以降ベテラン研究員の退職に伴い数値が低下していましたが、昨年、今年と2年続けての目標達成となりました。

平成30年度の取り組みに向けて

受託件数については、継続の案件でよりよい成果を提供していくとともに、活発な研究・資料活動を背景とした当館のシンクタンク活動についてPRし、受託件数の拡大に努めます。また県政・市町行政に対する貢献度につきましても、各行政機関に対して当館研究員の専門分野や研究成果を紹介するなどして、各種委員会への参画および県職員等の相談数のさらなる拡大に努めます。

2 生涯学習支援

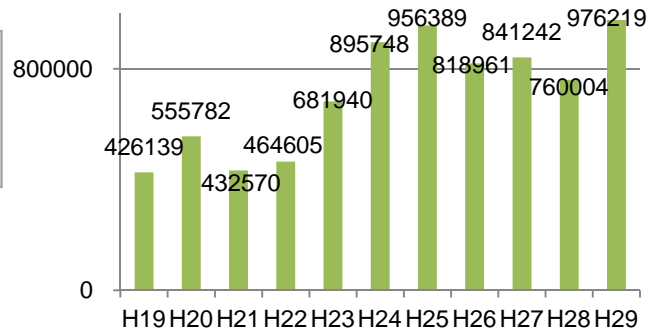
生涯学習課

好奇心を刺激する「演示」手法により、あらゆる世代に学び続ける場を提供します。

1 利用者数

総ビジター数

中期目標：800 千人/年
平成 29 年度：976 千人(122%)



2 生涯学習プログラム

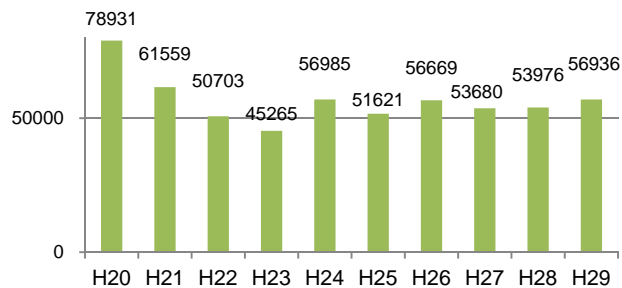
2-1.主催プログラム実施件数

中期目標：1,550 件/年
平成 29 年度：1,377 件(89%)



2-2.主催プログラム参加者数

中期目標：50,000 人/年
平成 29 年度：56,936 人(114%)



平成 29 年度の達成状況と自己評価

総ビジター数は、976 千人、前年度比 122%で、216 千人の増加になりました。このうち本館入館者は、159 千人、前年度比 111%、16 千人の増加になりました。また、館外活動参加者は、816 千人、前年度比 132%、199 千人の増加となりました。開館 25 周年記念事業を始め、キャラバン・主催アウトリーチ事業を積極的に展開した成果が現れたものと考えられます。

平成 30 年度の取組に向けて

県政 150 周年を記念して、一般の方々に興味・関心を持っていただきやすい内容のセミナー、企画展を重点的に開催します。また、イベントスケジュールの配布や学校園へのPRなど、広報を積極的に行います。キャラバン・主催アウトリーチ事業については、参加者に対して探求するおもしろさを伝えることができる内容や手法を工夫し、更なる充実を図っていきます。

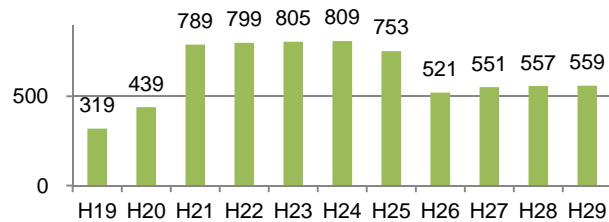
3 人材育成と活躍の場の整備

生涯学習
推進室

地域研究員・連携活動グループ等の担い手の成長を支援し、活躍の場をつくります。

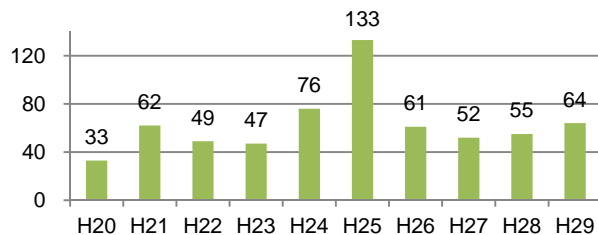
1 地域研究員・連携活動グループ登録者数

中期目標：500人(H29時点)
平成29年度：559人(112%)



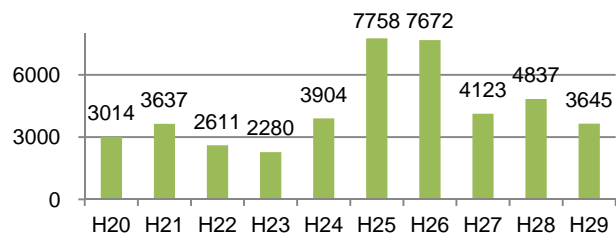
2 地域研究員・連携活動グループ主催事業実施件数

中期目標：40件/年
平成29年度：64件(160%)



3 地域研究員・連携活動グループ主催事業参加者数

中期目標：3,000人/年
平成29年度：3,645人(122%)



平成29年度の達成状況と自己評価

今年度は新たに2名の地域研究員を迎えました。地域研究員・連携活動グループ主催事業についても実施件数・参加者数ともに中期目標値を上回りました。第3期中期目標の期間である5年間にわたって、すべての項目で目標値を上回ることができました。検討課題であった「ひょうご・ふるさとミュージアム」事業については、H30年度から「地域連携タスクフォース」としてひとはくの主要な事業のひとつとして位置づけ、地域創成事業を推進する体制が整えられました。

平成30年度への取組に向けて

新しい第4期中期目標では、担い手の登録者数の指標として、発掘・剖出ボランティア数が追加されました。新たなメンバーを迎える仕組みづくりを進めます。

4 連携・アウトリーチ活動

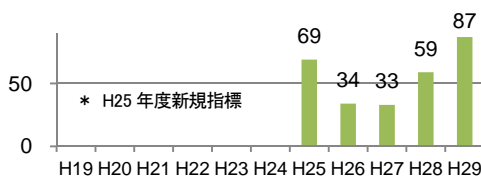
生涯学習
推進室

多様な主体と連携し、全県的に事業を展開します。

1 アウトリーチ事業

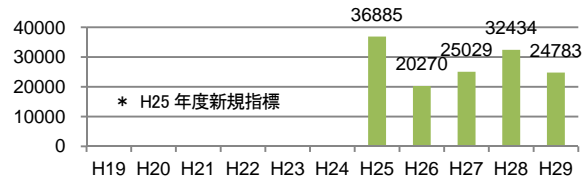
1-1. ゆめはく稼働日数

中期目標：50日/年
平成29年度：87日(174%)



1-2. ゆめはく参加者数

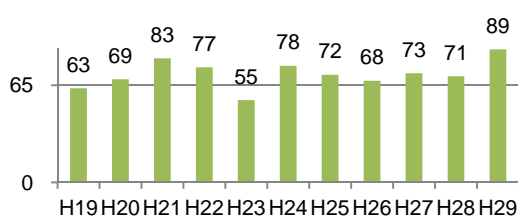
中期目標：10,000人/年
平成29年度：24,783人(248%)



2 連携(協力・共催)事業

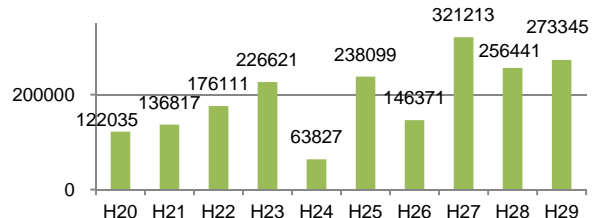
2-1. 連携事業件数

中期目標：65件/年
平成29年度：89件(137%)



2-2. 連携事業参加者数

中期目標：200千人/年
平成29年度：273千人(137%)



平成29年度の達成状況と自己評価

アウトリーチ事業については、ゆめはく稼働日数・参加者数ともに中期目標を大きく上回ることができました。稼働日数が大幅に増えたのは、開館25周年事業の一環としてキッズキャラバン25件、スクールキャラバン25件と大幅に増やしたことによるもので、多数の応募の中からキッズキャラバン55件、スクールキャラバン5件について実施しました。連携事業についても目標値を上回ることができました。

平成30年度の取組に向けて

スクールキャラバンは学校単位での実施からクラス/学年単位での出前授業に移行します。主催キャラバン事業としてはキッズキャラバン50件を実施します。さらに環境政策課との事業連携で「ひととはかせと生きもの探検」コースを新たに実施します。新しい中期目標の指標としては地域展開度を追加しました。県内の旧市町区すべてにサービスを提供することを目標にアウトリーチ事業を行います。

5 マーケティング・マネジメント

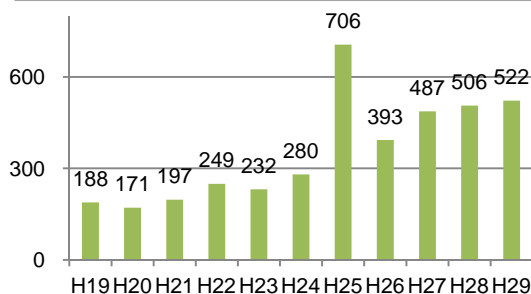
企画調整室

変化する社会に対応した効率的で健全な運営を行い、すべての県民に認知・利用される博物館をめざします。

1 情報発信

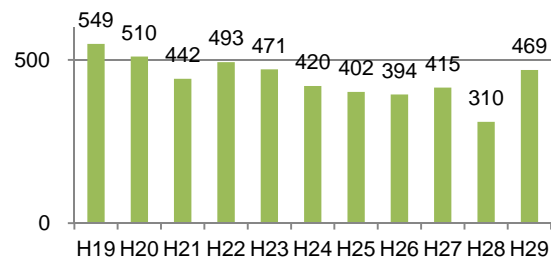
1-1. HP アクセス件数

中期目標：300千件/年
平成29年度：522千件(174%)



1-2. メディア等出演・掲載回数

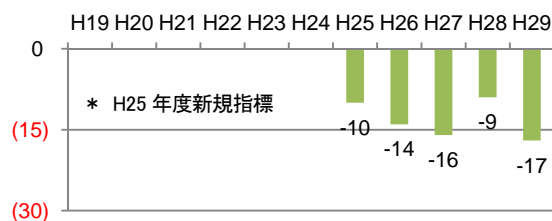
中期目標：500回/年
平成29年度：469人(94%)



2 エネルギー使用量

電気・ガス・水道使用料の削減率

中期目標：-15%(H24年度比)
平成29年度：-17%(113%)



平成29年度の達成状況と自己評価

ホームページのアクセス件数は前年度に引き続き高い水準を保っています。検索でヒットしやすい環境が定着していること、親しみやすいブログ記事を頻繁に更新するなどの努力の反映と考えています。メディア等への出演・掲載件数は昨年度よりも大幅に増加し、目標値をほぼ達成することができました。エネルギー使用量も高い水準にあり、目標値を達成することができました。

平成30年度の取組に向けて

ホームページのアクセスやメディア露出については、多くの事業やプロジェクトの内容を積極的に紹介、博物館活動のさらなる可視化と情報発信に努める方針です。エネルギー使用量については、来館者に快適な学習環境を提供しながら、引き続き適正化を図ります。

第3期中期目標(平成25～29年度)

第3期中期目標では、①変化する社会状況に対応する、②研究-シンクタンク事業を強化する、③好奇心を刺激し、学び続ける仕組みを提供する、④担い手を育成し、活動の場を創造する、⑤多様な主体と連携し、地域づくりに貢献する、の5つを行動指針とし、県民が活動・交流するステージとしての博物館、兵庫の自然・環境を未来に継承する学習コアとしての博物館、県政課題の解決のための知的創造インフラとしての博物館をめざす。

1. 研究-シンクタンク活動: 博物館活動の基盤となる研究・資料収集・シンクタンク機能を強化する

小項目	指標	H29目標値	H29	達成度(%)	H25-29の目標値	H25～H29	達成度(%)	単位
1. 研究: すべての活動の基礎となる研究を、引き続き精力的に遂行し、成果を還元する	1. 学術論文・図書数	35	48	137	175	236	135	本/年
	2. 一般向け著書・その他著作数	60	39	65	300	265	88	本/年
2. 資料: 特色ある質の高い資料を収集・整理し、利活用を推進する	1. 登録点数	10,000	18,325	183	50,000	64,239	128	点/年
	2. 利活用点数(館内展示+館外展示+貸出点数+マルチメディア等データ提供点数)	5,200	19,841	382	26,000	75,113	289	点/年
3. シンクタンク: 「地域資源の保全・利活用の最適化をはかる」ことを目的としたコミュニティシンクタンク活動を展開する	1. 受託件数	15	16	107	75	78	104	件/年
	2. 県政・市町行政に対する貢献度(委員数+相談件数)	1,100	1,109	101	5,500	4,939	90	件/年

2. 生涯学習支援: 好奇心を刺激する「演示」手法により、あらゆる世代に学び続ける場を提供する

小項目	指標	H29目標値	H29	達成度(%)	H25-29の目標値	H25～H29	達成度(%)	単位
1. 利用者数: 多くの県民による博物館の利用を推進する	1. 総ビジター数	800	976	122	4,000	4,352	109	千人/年
2. 生涯学習プログラム: 「演示」手法を重視した世代・レベルに応じた生涯学習プログラムの開発を行い、多様な学びの場を提供する	2. 主催プログラム実施件数	1,550	1,377	89	7,750	6,922	89	件/年
	3. 主催プログラム参加者数	50,000	56,936	114	250,000	272,882	109	人/年

3. 人材育成と活躍の場の整備: 「担い手」の成長を支援し、活躍する「舞台」を提供する

小項目	指標	H29目標値	H29	達成度(%)	H25-29の目標値	H25～H29	達成度(%)	単位
1. 地域研究員・連携活動グループ等の担い手の成長を支援し、活躍の場をつくる	1. 登録者数	500	559	112	500	557	111	人(H29年度)
	2. 主催事業実施件数	40	64	160	200	365	183	件/年
	3. 主催事業参加者数	3,000	3,645	122	15,000	28,035	187	人/年

4. 連携・アウトリーチ活動: 多様な主体と連携し、全県的に事業を展開する

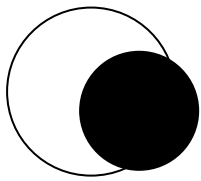
小項目	指標	H29目標値	H29	達成度(%)	H25-29の目標値	H25～H29	達成度(%)	単位
1. アウトリーチ事業: 移動博物館車「ゆめはく」を活用し、多種多様なアウトリーチ活動を全県的に展開する	1. ゆめはく稼働日数	50	87	174	250	282	113	日/年
	2. ゆめはく参加者数	10,000	24,783	248	50,000	139,401	279	人/年
2. 連携(共催・協力)事業: 多様な主体との連携事業を推進する	1. 件数	65	89	137	325	373	115	件/年
	2. 参加者数	200	273	137	1,000	1,234	123	千人/年

5. マーケティング・マネジメント: 変化する社会状況に対応した効率的で健全な運営を行い、全ての県民に認知・利用される博物館を目指す

小項目	指標	H29目標値	H29	達成度(%)	H25-29の目標値	H25～H29	達成度(%)	単位
1. 情報発信: 全ての県民に認知・利用される博物館を目指す	HPアクセス件数	300	522	174	1,500	2,614	174	千件/年
	メディア等出演・掲載回数	500	469	94	2,500	1,990	80	回/年
2. エネルギー使用量: 効率化によりエネルギー使用量の削減を推進する	電気・ガス・水道使用量の削減率(H24年度比)	-15	-17	113	-15	-13	88	%
3. 中期目標: 中期目標の達成に向けた健全かつ効率的な事業推進をはかる	達成度	80	84	105	80	74	92	%

第3 中期目標の達成状況と自己評価

平成 29 年度は第3期中期目標の設定期間(平成 25 年度～29 年度)の最終年度にあたります。この期間全体の達成状況をみると、全指標の 74%の指標について実績が目標値を上回っていることがわかります。これら以外の5つの指標は残念ながら目標値を下回っていますが、目標値の達成度をみると、いずれの指標も 80%を超えています。これらのことを考え合わせると、第3期中期目標はおおむね達成されたと評価することができます。しかし、当該目標が完全に達成されたとはいえませんが、この点の反省は必要です。平成 30 年度以降は、第3期中期目標の達成状況を念頭におきながら、新たに設定した中期目標(第4期中期目標)の完全達成に向けて、博物館活動のさらなる充実化・活性化を図っていく方針です。



タスクフォース事業

タスクフォース(組織群)について

従来の組織群とは別に、短期の課題を達成するために平成20年度からタスクフォース制度を導入しました。各タスクフォースはリーダー・マネージャー・メンバーで構成し、課題の達成状況に応じて年度途中でも人員は変更可能です。また新たなタスクフォースを発足できるようにしています。

■ビジョン実現タスクフォース

(1) ひとはくの研究と生涯学習機能強化・イノベーションに向けた将来ビジョンの検討

これまでの検討事項や課題、アクション・プランや現状の展示、プロジェクト群の整理を行い、新たな将来ビジョン構築に向けたステップとして、以下のような内容を検討した。

1-1. 課題と必要性

- ・自然や生物多様性への市民の理解を深めることは、科学だけでなく、地域活性化や経済活動、文化活動にまで及ぶ現在の緊急の課題となっている。博物館の研究と生涯学習機能は、まさにこの課題解決の中心的な役割を果たすべきものであり、それらの機能をどのように強化していくのかは、人と自然の共生を博物館のミッションとしている「ひとはく」にとって最も重要な使命である。
- ・この数十年の科学・技術の革新には目覚ましいものであり、20年以上前から更新されていない展示情報や研究設備では、博物館の重要ミッションである研究と生涯学習を果たせない部分が多くなっている。加えて、寄贈コレクションを含む標本・資料が収蔵庫に収まらず、活用に向けた整理も十分に行えない状況が続いている。
- ・社会情勢も、この数十年で大きく変革し、単に展示からの発信を受けるだけでなく、能動的に博物館に収蔵された資料や情報を活用した学びや、より本格的な研究活動に取り組みたい市民が増えている。平成18年度に策定した「新たな人と自然の博物館基本構想」にて提示した、研究員や県民が媒介して標本・資料の持つ魅力を伝える「演示」を駆使し、生涯学習に対する多様なニーズに応えるには、従来のソフト事業の継続・発展と共に、それを支えるハードや情報基盤を強化する必要がある。

1-2. 研究と生涯学習機能強化へ向けた方針の提案

- ・ひとはくに蓄積されたコレクションを、県民へのアクセスビリティが高い形式で収蔵する「魅せる収蔵庫」や、来館者が最新研究機器を活用して能動的に学ぶことができるオープン・ラボや実習室などの新たな施設増築の実現を目指す。
- ・県下で博物館活動を展開するアウトリーチ事業を更に進めるべく、モバイル型や期間限定型のコレクション活用を進めて行く。また、大学院教育などのより高度な学習から幼児、熟年層まで、あらゆる世代、あらゆる教育レベルに対応できるよう、更なるコンテンツ開発及び人材養成事業を進める。

(2) 勉強会・ワークショップの開催

ひとはくの研究と生涯学習機能強化・イノベーションに向けた検討を進める知見の収集と意見交換の場として、他館や民間企業等の外部講師を招いた勉強会を開催した。これらの知見を基にして、「魅せる収蔵庫」の具体的なイメージを検討するワークショップを開催した。

(ビジョン実現タスクフォース 田原直樹・橋本佳明・三橋弘宗・赤澤宏樹・橋本佳延・布野隆之・福本優)

■ 恐竜事業推進タスクフォース

(1) 篠山層群化石を活用した地域活性化を目指す人材育成システムの構築

篠山層群から産出する化石の調査・研究をさらに推進し、その成果を活用するため、人材育成（発掘・剖出・普及教育）の体制を強化する。今後10年間で持続可能な人材育成循環システムの構築をめざす。最終的には、ボランティア人材の登録100名体制を目標に、将来的に持続可能な人材育成システムの基盤をつくる。その基盤づくりに向けて、平成29年度は以下の事業を実施した。

1-1. 人材育成システムの構築に向けた基盤づくり

「ひとはく化石専門指導員」の認定制度を新たに設け、人材育成の取り組みを開始した。また、1月より「化石剖出ボランティア」の受け入れを開始した。募集期間を2回（第一回：12/19～1/21、第二回：1/22～3/25）に分け、各回の事前説明会（1/29、4/8）を実施した。剖出ボランティア登録は5名（H.30.4月現在）。

1-2. 市民参加型発掘調査

ひとはく化石専門指導員の認定のための実地研修として、川代トンネル岩砕（篠山層群）を用いた石割ボランティア調査を実施した（第一次、3/3～15日の計11日間、場所：兵庫県立丹波並木道中央公園）。参加者数はのべ74人。これとは別に、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会、丹波市および篠山市と協働で、10月から1月の間で、10日間開催。参加者はのべ126人。平成29年度の石割ボランティアの登録者数は24名。

(2) 研究

丹波竜に代表される篠山層群産の脊椎動物化石の研究を中心に、国内外の大学・研究機関等と協働して推進し、将来の研究拠点形成を視野に、研究実績の蓄積や地域づくり活動支援の強化を進める。

- ・発表論文1件（恐竜関連の研究資料、1件）、研究発表2件（米国古脊椎動物学会、日本古生物学会の各1件）。
- ・研究成果の記者発表（レク）1件。発表項目は「篠山層群から発見された新たな化石・産出地点について」（1/30、場所：県庁3号館10F教育委員会室）。

(3) 普及事業

恐竜化石等の調査や研究内容をセミナーの開催や展示等を通じて広く公開する。

3-1. 開館25周年記念フォーラムの開催

「日本の恐竜時代を探る！」（2/18）と題してフォーラムを開催した。参加者数345人。

3-2. デルタドロメウスの展示

大型肉食恐竜「デルタドロメウス」の全身骨格レプリカ（国立科学博物館所蔵）を本館4Fで展示した。展示に際して、骨格の組み立ての様子を一般公開した。平成30年3月現在、エントランスホールで展示。

3-3. 臨時展示

臨時展示「トンネルから見つかった恐竜—篠山層群の角竜類—」（2/11～4/8）を実施した。

(4) 地域支援

平成22年度に締結した「篠山層群における恐竜・ほ乳類化石等に関する基本協定」にもとづき、地域支援を展開している。平成27年度から丹波県民局が主導する「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム」事業が始動し、その活動を支援している。

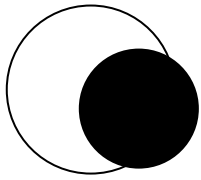
4-1. 丹波竜フェスタの開催（共催）

丹波市と兵庫県立大学COC事業（Center of Community、地（知）の拠点整備事業）と連携し、恐竜化石を活かしたまちづくりに関する一般向け講演会「みんなで取り組む恐竜のまち—むかわ竜、ミフネリュウ、丹波竜—」（11/26）を丹波市で開催した。参加者数250人。

4-2. 各種事業への参画

- ・恐竜化石関係機関等連携推進会議（事務局：丹波県民局） 2回（6/28、2/27）
- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会・総会（5/25）
- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム会議 7回（8/24、9/26、10/26、11/28、12/20、1/26、2/21）
- ・第6回丹波なみきみちまつり2017「収穫祭」（10/1）
- ・丹波市恐竜を活かしたまちづくり協議会（10/5）
- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアムスタートアップミーティング（3/4）
- ・企画展示 6件（丹波竜化石工房ちーたんの館、篠山市立太古の生きもの館、有馬温泉瑞宝園、おおやアート村、伊丹こども文化科学館、国営明石海峡公園で各1件）

（恐竜事業推進タスクフォース 佐藤裕司・田原直樹・太田英利・三枝春生・池田忠広・古谷裕・加藤茂弘・半田久美子・生野賢司・久保田克博）



プロジェクト

ひとはくでは、2002年度の「新展開」以後、館長辞令による館独自の職制を導入し、研究員が事業部やタスクフォースを兼務する体制で事業を推進してきました。さらに2012年度に「ひとはく将来ビジョン」をとりまとめ、組織体制・マネジメントのあり方の一つとして、「適時チームビルディングを行う柔軟な組織体制」を掲げました。変化の激しい社会情勢に柔軟に対応するため、課題やミッションに合わせ、チームづくりや事業等のリストラクチャリングをフレキシブルに行うことができるしくみが必要であり、2014年度より、「プロジェクト制」の導入を開始しました。これは、研究員になじみのある研究プロジェクトの方法を、事業等にも適用したもので、各研究員が自由に新規に立ち上げることができ、構成員は代表者、分担者、協力者で、ひとはくの職員に限らず、外部と協力して行うことができます。また外部資金の導入も積極的に進めています。ひとはくの活動を網羅する内容になっており、国際交流事業やシンクタンク、生涯学習プログラム、収蔵資料、学術研究など多岐にわたっています。ひとはくでは独自に中期目標を設定し定量的な指標を用いて評価を行っていますが、プロジェクトでは、定量的に把握できない質的なパフォーマンスを表しています。2017年度は、下記95件のプロジェクトを展開しています。

■2017年度のプロジェクト(計95件)

- ・ 文科省博物館ネットワークにおけるレガシー事業
- ・ 顕栄短期大学標本の登録・整理
- ・ 恐竜特色化推進プロジェクト
- ・ 博物館国際交流事業の推進
- ・ 国際交流事業 高校生のための生き物体験ツアーin台湾
- ・ キッピー山プロジェクト
- ・ 鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けた検討支援
- ・ うずしお科学館運営支援
- ・ 但馬牛博物館改修支援
- ・ ありまふじ休養ゾーン活性化プロジェクト
- ・ 幼児期の環境学習ネットワーク推進事業への支援
- ・ ヒアリ・外来生物・危険生物プロジェクト
- ・ ひょうご・ふるさとミュージアムプロジェクト
- ・ 加東市との連携と環境学習事業への支援
- ・ 2017年～2019年までの展示計画1 トピックス展示
- ・ 2017年～2019年までの展示計画2 コレクション(収蔵)展示
- ・ 博物館トイレ改修プロジェクト
- ・ 館内の壊れた箇所をチマチマ修理するプロジェクト
- ・ ひとはくのハチ類コレクション整備推進プロジェクト
- ・ Kids サンデープロジェクト
- ・ ミュージアムキッズ!プロジェクト
- ・ ゆめはくプロジェクト
- ・ 共生のひろば
- ・ 相生キャラバン
- ・ 中山間地域の学校における地域資源開発・人材育成の学習教育プログラムづくり
- ・ 博物館研究紀要「人と自然 Humans and Nature」の編集・発行

- ・兵庫県下市町の生物多様性地域戦略の策定・推進を目的とした行政支援
- ・佐用町での薬草による地域づくりの支援
- ・地域資源を活かした「明延」のまちづくり支援
- ・ジーンバンク事業の推進
- ・博物館情報システムの開発とシステム整備
- ・地学系収蔵庫の資料整理の推進
- ・琉球列島を中心とした熱帯～温帯アジアの爬虫・両生類相の多様性と自然史に関する研究
- ・ブータンの爬虫・両生類の多様性に関する調査研究
- ・生物多様性創出機構の解明
- ・管住生ハチ類を指標とする里山環境の保全研究
- ・昆虫標本の展示手法の研究
- ・シソ科アキギリ属の送粉者調査と繁殖干渉
- ・兵庫県産植物を中心とした植物分類学的研究
- ・兵庫の絶滅危惧種オチフジの集団解析
- ・アマナの遺伝解析
- ・植物標本デジタル化の促進
- ・溪流沿い植物ヒメタムラソウの繁殖様式
- ・ネパール植物誌への貢献
- ・生物系標本庫（昆虫）の資料整理とデータの公開
- ・東南アジアにおける吸血節足動物媒介性ウイルスの網羅的探索とリスクマップ作製
- ・豊岡市におけるマダニ調査
- ・岡山市における蚊類調査
- ・愛媛県中～南部におけるマダニ調査
- ・日本産ウオノエ科甲殻類の分類学的研究
- ・シクリッドにおけるオス集団内色彩二型の進化に関する研究
- ・適応放散の分子機構解明に向けたビクトリア湖沼生物ゲノムの多様性の網羅比較
- ・脊椎動物の社会進化モデルとしてのカワスズメ科魚類の社会構造および行動基盤の解明
- ・博物館ネットワークを通じた生物多様性情報の活用と標本整備
- ・神戸市排水処理施設浸出水における自然浄化システムの構築
- ・御影高校における博物館活用型の学習プログラム構築
- ・芦屋市打出浜小学校における干潟を活用した学習プログラムの開発
- ・「ドリームスタジオ・フェスタ」プロジェクト
- ・有馬富士公園 人材育成
- ・ミツカンよかわビオトープ倶楽部支援
- ・世界の都市公園リサーチPJ
- ・国営明石海峡公園神戸地区管理運営準備支援
- ・尼崎 21 世紀の森構想の推進支援
- ・尼崎の森中央緑地パークセンター運営支援
- ・西武庫公園再生支援
- ・長居公園・長居植物園運営支援
- ・三田市景観計画策定支援
- ・近畿・中国・四国のランドスケープ遺産インベントリーの作成
- ・吹田市 千里南公園パークマネジメントプロジェクト
- ・ニュータウンの団地設計思想の研究
- ・北摂里山博物館構想の支援
- ・三田市皿池湿原の保全
- ・たつの市鶏籠山の照葉樹林の保全
- ・兵庫県における未確認植物群落の実態把握
- ・都市公園と里山林の植物相の保全と活用
- ・丹波地域の貴重植物の探索と保全活動
- ・乾燥種子標本の収集・活用
- ・生物多様性保全に資するジーンバンク事業の展開
- ・植生資料データベースの構築・公開

- ・植物・植生映像資料データベースの充実化と有効活用
- ・ひとはく生物多様性の森を活用した市民活動・環境学習支援
- ・三田市南公園 まちなか里山保全プロジェクトの支援
- ・東お多福山草原保全・再生プロジェクトの推進
- ・生物多様性協働フォーラムの枠組みを活用した生物多様性の普及・啓発、研究開発
- ・山陰海岸における海浜植物・海浜植生の保全推進
- ・名勝慶野松原における海浜植物・林床植生の保全推進
- ・兵庫県における重要植物群落の現状把握と保全推進
- ・生物系標本庫（植物）の資料整理とデータの公開
- ・高次脳機能障がい者にもわかりやすい放送音声の視聴実験
- ・アフリカ中央部（カメルーン、コンゴ共和国など）の既存収集品の整理
- ・インドネシア・パンガンダラン自然保護区のシルバールトン長期データの解析
- ・言語音がわかりにくい高次脳機能障がい者とともに作る生涯学習施設の放送音声
- ・「深田公園植物情報」展示等による演示プログラムの試行
- ・年配者と地域の子どもをつなぐプロジェクト
- ・昆虫を介したコミュニケーションの創出